

ホタルのために海の幸を

餌のカワニナ増へ カキ殻袋を設置

10/5 延岡市 北浦町 三川内で河川大清掃作戦

延岡市北浦町の三川内地域で3日、市立三川内中学校(原田政文校長、12人生徒会がホタルの生息を目的に地域住民と一緒に河川清掃を行う「三川内河川大清掃作戦(MKD)」があった。河川清掃のほか、実証調査でホタルの餌となるカワニナの増殖が確認されたカキ殻も設置した。

MKDは今年で24回目。同校はケンジボタルの保護活動に40年以上前から取り組んでおり、その一環として北浦内水面漁業協同組合、三川内公民館館長(80世帯)は、中学生5人を含む約60人が参加し、河川沿いに複数の

の活動として根付いている。活動は各公民館を集

場所に分かれて作業した。参加者は川に入って歩きながら川底に沈むプラスチックや金

属、農薬用の廃材などを拾い集めていた。各持ち場で拾ったごみは公民館に持ち寄られて

早速分別。金属、燃えるごみなど同地区だけで軽トラック2台分が集まった。

中学生は、漁業用の網を縫い合わせ、カキ殻を詰めた袋を全部で

18個用意。河川清掃と併せ、各地区で生徒や教職員が地域住民と設置し、歌糸地区にはこのうち9個を設置した。

同校ではケンジボタルが減少していることから、ホタルを増やすための餌となるカワニナを自給。2019年には小中学校統合により使っていなかったフールでの養殖。昨年は学校近くの河川にカキ殻を詰めた籠を設置した。フールでの養殖は失敗に終わったが、河川へのカキ殻設置では、カキ殻周辺に複数のカワニナがいたこと、カキ殻がカワニナにとって食べられた跡があることを確認。海の幸を山の光に」を合言葉に、今回の設置に至った。実験としてオウギ貝など違う種類の貝殻を入れた物も用意。貝殻は同漁協が提供した。

2年生の甲斐美咲さんは(MKD)は大変だったが、これからもホタルが増えるようにごみ拾いなどの活動を続けていきたい。去年より多くのホタルが見れば」と笑顔。甲斐校長も「年々、ごみの量が減ってきている。いつまでもきれいな川を継続していきたい」と話した。



カキ殻を設置する中学生



川の中に入ってごみ拾いをした



地域の人と一緒にカワニナが生息しやすい場所を探し、カキ殻を設置した



カキ殻設置に向け、漁業用の網を縫って、袋を作った(同校提供)